# 財団 Information ▶報告書

## 令和2年度「日本薬局方の試験法等に関する研究」研究報告 LC/MSメタボロームを用いたバクモンドウの品質多様性評価\*2

吉冨 太一\*1, 丸山 卓郎\*1.#

Quality Evaluation of Ophiopogon Root Based on LC/MS Metabolome

Taichi YOSHITOMI\*1 and Takuro MARUYAMA\*1,#

#### Summary

JP18 stipulates *Ophiopogon japonicus* Ker-Gawler as the botanical origin for Ophiopogon Root. Although *O. japonicus* sensu lato (s.l.) includes *O. japonicus* s.s., *O. ohwii* (Nagaba-janohige) and *O. chekiangensis* (Sekko-ryunohige), the quality variation of the crude drugs derived from the different species is unclear. In this study, we analyzed the chemical profiles of the crude drugs derived from each species by using LC/MS and applied multivariate analysis to the obtained data to estimate the chemical diversity of Ophiopogon Root.

Principle components analysis (PCA) of the LC/MS data revealed that the crude drugs derived from each species have distinct chemical compositions. However, the profiles of the marketed products originated from *O. japonicus* s.s. were similar to those of *O. chekiangensis*. These results suggest environmental factors such as cultivation method and cultivation area have more influence on the chemical profile of the crude drug than genetic factors.

A PCA loading plot indicated that each species contains characteristic steroidal saponins. Although homoisoflavones are also major secondary metabolites in Ophiopogon Root, only two compounds were detected in *O. ohwii*. There appear to be differences among the plant species in the relative contents of steroidal saponins and homoisoflavones.

Next, in order to focus on homoisoflavones, we removed signals with m/z 450 and more from the data matrix to exclude steroidal saponins, which have a larger molecular weight. In the PCA score plot, each species formed a distinct group, similarly to the result in the case of PCA of all data. However, in this analysis many homoisoflavones were observed as characteristic compounds in each group.

In conclusion, Ophiopogon Root from *O. japonicus* s.l. could have various chemical profiles in terms of steroidal saponin and homoisoflavone compositions due to intraspecies variation. However, the chemical diversity is not large, and environmental factors have more influence than genetic factors.

#### Key words

Ophiopogon Root, Ophiopogon japonicus sensu lato, LC/MS metabolome, Steroidal saponin, homoisoflavone

\*1 国立医薬品食品衛生研究所生薬部 川崎市川崎区殿町3-25-26 (〒210-9501)

National Institute of Health Sciences, 3-25-26 Tonomachi, Kawasaki-ku, Kawasaki 210-9501, Japan

<sup>\*2</sup> 本研究は一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団の令和2年度「日本薬局方の試験法等に関する研究」事業により 行ったものである.

<sup>#</sup> 責任著者Corresponding author

## 1 緒言

バクモンドウは、日本薬局方収載生薬の一つであ り、鎮咳目的に汎用される麦門冬湯など、多数の漢 方処方に用いられる重要生薬である。第十八改正日 本薬局方では、バクモンドウの基原をジャノヒゲ Ophiopogon japonicus の根の膨大部と規定している が、原植物であるジャノヒゲには、ナガバジャノヒ ゲ、セッコウリュウノヒゲなど、分類学者によって は、ジャノヒゲとは、別種あるいは変種として扱わ れる植物がある。

これらの植物は,狭義のジャノヒゲとは,葉身の 形状や地下茎の有無などに違いがあるが,薬用部位 である根の膨大部の成分とこれらの狭義の分類との 相関関係については,明らかにされていない.そこ で本研究では,バクモンドウの品質標準化を最終目 的に,同一条件で栽培されたジャノヒゲ,ナガバ ジャノヒゲ,セッコウリュウノヒゲからバクモンド ウを調製し,LC/MSメタボロームによる成分組成 解析を行った.

## 2 研究方法

#### 2.1 実験材料

北里大学薬学部附属薬用植物園で栽培されたジャ ノヒゲ,ナガバジャノヒゲ,セッコウリュウノヒゲ (基原不明4検体含む)の地下部を収穫し,水洗した 後,根の膨大部のみを切り出し,実験材料とした. 別に日本及び台湾の市場で購入した市場品11検体 を加え,計36検体を用いた.試料の詳細は,Table 1に示した.

#### 2.2 LC/MS分析

#### 2.2.1 試料溶液の調製

各検体50 mgにメタノール1 mLを加えて30分間, 振とう抽出し, 遠心分離後, 上清を回収した. この ものをメンブランフィルター (PALL Japan, Acrodisc MS, 0.2 µm) でろ過し, 試料溶液とした. 2.2.2 分析条件

装置はLC部に Ultimate 3000 HPLC system (Thermo Fisher Scientific) を, MS検出器に Orbitrap Q-Exactive (Thermo Fisher Scientific)を用

種名(狭義)/品名	採集地/購入地	Sample no.	種名(狭義)/品名	採集地/購入地
	あきる野市	OJ-124	セッコウリュウノヒゲ	山科植物資料館
	横須賀市	OJ-125	セッコウリュウノヒゲ	山科植物資料館
	東京都薬用植物園	OJ-126	セッコウリュウノヒゲ	北里大薬用植物園
	北里大学薬用植物園	OJ-128	セッコウリュウノヒゲ	北里大薬用植物園
ナガバジャノヒゲ	秦野市	OJ-131	セッコウリュウノヒゲ	都薬用植物園
ナガバジャノヒゲ	秦野市	OJ-132	セッコウジャノヒゲ	都薬用植物園
ナガバジャノヒゲ	あきる野市	OJ-138	セッコウリュウノヒゲ	岡山大薬用植物園
ナガバジャノヒゲ	あきる野市	OJ-NIHS-001	バクモンドウ	国内市場
ナガバジャノヒゲ	あきる野市	OJ-NIHS-002	バクモンドウ	国内市場
ナガバジャノヒゲ	あきる野市	OJ-NIHS-004	バクモンドウ	国内市場
ナガバジャノヒゲ	相模原市	OJ-NIHS-005	バクモンドウ	国内市場
ナガバジャノヒゲ	相模原市	OJ-NIHS-006	バクモンドウ	国内市場
ジャノヒゲ	さいたま市	OJ-NIHS-007	バクモンドウ	国内市場
ジャノヒゲ	さいたま市	OJ-NIHS-008	バクモンドウ	国内市場
ジャノヒゲ	横須賀市	OJ-NIHS-009	バクモンドウ	韓国市場
ジャノヒゲ	横須賀市	OJ-M-4	バクモンドウ	台湾市場
ジャノヒゲ	相模原市	OJ-M-7	バクモンドウ	国内市場
ジャノヒゲ	相模原市	OJ-M-8	バクモンドウ	国内市場
	<ul> <li>種名(狭義)/品名</li> <li>●</li> <l< td=""><td>種名(狭義)/品名採集地/購入地あきる野市横須賀市東京都薬用植物園北里大学薬用植物園ナガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲショる野市ナガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲションナガバジャノヒゲ大丁レビゲ大丁レビゲジャノヒゲジャノヒゲ大和模頂市ジャノヒゲ村模原市ジャノヒゲ村根原市ジャノヒゲ村根原市ジャノヒゲ村根原市</td><td>種名(狭義)/品名採集地/購入地Sample no.あきる野市OJ-124「人」「人」「「人」「人」東京都薬用植物園OJ-126北里大学薬用植物園OJ-128ナガバジャノヒゲ秦野市クガバジャノヒゲ泰野市ウブ・131〇ノー132ナガバジャノヒゲあきる野市ウガバジャノヒゲあきる野市ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-001ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-002ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-005ナガバジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲそいたま市ジャノヒゲ横須賀市ジャノヒゲ根模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ日本シャシャジャ日本ジャシャジャ日本ジャシャジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本</td><td>種名 (狭義) /品名採集地/購入地Sample no.種名 (狭義) /品名あきる野市OJ-124セッコウリュウノヒゲ横須賀市OJ-125セッコウリュウノヒゲ東京都薬用植物園OJ-126セッコウリュウノヒゲ北里大学薬用植物園OJ-128セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲ秦野市OJ-131セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲ泰野市OJ-132セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲあきる野市OJ-138セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-001バクモンドウナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-002バクモンドウナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-005バクモンドウナガバジャノヒゲ相模原市OJ-NIHS-006バクモンドウジャノヒゲ植模原市OJ-NIHS-007バクモンドウジャノヒゲ横須賀市OJ-NIHS-009バクモンドウジャノヒゲ植模原市OJ-M-4バクモンドウジャノヒゲ相模原市OJ-M-7バクモンドウジャノヒゲ相模原市OJ-M-8バクモンドウ</td></l<></ul>	種名(狭義)/品名採集地/購入地あきる野市横須賀市東京都薬用植物園北里大学薬用植物園ナガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲショる野市ナガバジャノヒゲ大ガバジャノヒゲションナガバジャノヒゲ大丁レビゲ大丁レビゲジャノヒゲジャノヒゲ大和模頂市ジャノヒゲ村模原市ジャノヒゲ村根原市ジャノヒゲ村根原市ジャノヒゲ村根原市	種名(狭義)/品名採集地/購入地Sample no.あきる野市OJ-124「人」「人」「「人」「人」東京都薬用植物園OJ-126北里大学薬用植物園OJ-128ナガバジャノヒゲ秦野市クガバジャノヒゲ泰野市ウブ・131〇ノー132ナガバジャノヒゲあきる野市ウガバジャノヒゲあきる野市ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-001ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-002ナガバジャノヒゲあきる野市ウブ・NIHS-005ナガバジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲそいたま市ジャノヒゲ横須賀市ジャノヒゲ根模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ相模原市ジャノヒゲ日本シャシャジャ日本ジャシャジャ日本ジャシャジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本ジャ日本	種名 (狭義) /品名採集地/購入地Sample no.種名 (狭義) /品名あきる野市OJ-124セッコウリュウノヒゲ横須賀市OJ-125セッコウリュウノヒゲ東京都薬用植物園OJ-126セッコウリュウノヒゲ北里大学薬用植物園OJ-128セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲ秦野市OJ-131セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲ泰野市OJ-132セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲあきる野市OJ-138セッコウリュウノヒゲナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-001バクモンドウナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-002バクモンドウナガバジャノヒゲあきる野市OJ-NIHS-005バクモンドウナガバジャノヒゲ相模原市OJ-NIHS-006バクモンドウジャノヒゲ植模原市OJ-NIHS-007バクモンドウジャノヒゲ横須賀市OJ-NIHS-009バクモンドウジャノヒゲ植模原市OJ-M-4バクモンドウジャノヒゲ相模原市OJ-M-7バクモンドウジャノヒゲ相模原市OJ-M-8バクモンドウ

Table 1 Details of Ophiopogon Root Used in This Study

Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Vol. 53 No. 6 (2022) No reproduction or translation of articles in this journal without permission. Moreover, copy or reproduction without permission is prohibited except for exception under copyright laws. い, 測定条件は下記の通りとした. カラム, Acquity UPLC BEH (100 mm × 2.1 mm ID,  $1.8 \mu$ m; Waters); 移動相, 0.1% HCOOH in water (A) - 0.1% HCOOH in acetonitrile (B) in a gradient mode: 15% B (0-3 min) → 65 % B (125 min) → 95% B (20 min) → 100% B (20.01 min) → 100% B (24 min) ; 注入量,  $2\mu$ L; 流速, 0.45 mL/min;  $\pi$  →  $\pi$ ,  $40^{\circ}$ C; 検出 器, PDA (200-400 nm) ; MS, interface, ESI positive/negative; spray voltage, scan range, m/z100-1500; mass resolution.

#### 2.3 多変量解析

クロマトグラムのアライメントとピーク抽出は progenesis QI (Waters)を用いて行った.アライメン トは,全検体の試料溶液を等量混合した溶液のデー タをリファレンスに指定して行った.得られたデータ はEZinfo (Umetrics)により,データマトリクスに変 換した.データマトリクスは,全データのものと*m/z* 450以下のピークに限定したものの2種類を作成 し,それぞれについて主成分分析 (PCA)を行った.

PCAは、SIMCA-14 (Umetrics) に て 行 い, pretreatmentとしてpareto scalingを用い, transformationを特に設定せず実施した. 寄与成分 の探索はローディングプロットにより行った.

#### 2.4 分類に寄与する成分の検索

Combined Chemical Dictionary (化学情報協会) を用いて*Ophiopogon*属植物から報告されている成 分を抽出し,成分名,組成式,精密質量からなる in-house libraryを作成した.次に,progenesis QI のidentify compounds機能を用いて,loading plot から推定された分類寄与成分に一致する質量値を持 つlibrary 内の化合物を検索した.検索の際には, mass toleranceを5ppmに設定した.

### 3 結果と考察

バクモンドウ市場品,ジャノヒゲ,ナガバジャノ ヒゲ,セッコウリュウノヒゲの代表的なクロマトグ ラムをFig. 1,2に示した. Negative ion modeでの 測定データをPCA解析した際のスコアプロット及 びローディングプロットをFig. 3に示した.ジャノ ヒゲ,ナガバジャノヒゲ,セッコウリュウノヒゲ は,それぞれ,独自のグループを形成した.また, 市場品は,セッコウリュウノヒゲと同じグループに 分類された.

同様に、Positive ion modeでの測定データを PCA解析した際のスコアプロット及びローディン グプロットをFig. 4に示した. Positive ion modeの



Fig. 1 Representative TIC Chromatograms on LC/MS Analysis (negative ion mode)



Fig. 2 Representative TIC Chromatograms on LC/MS Analysis (positive ion mode)



Fig. 3 Score Plot (A) and Loading Plot (B) in PCA on All Data of LC/MS Analysis (negative ion mode) for Ophiopogon Root

データを用いた場合も,ジャノヒゲ,ナガバジャノ ヒゲ,セッコウリュウノヒゲは,独自のグループを 形成し,市場品は,セッコウリュウノヒゲと同じグ ループに分類された.

また, 基原種不明の4検体は, positive ion mode,

negative ion mode の双方において、2検体がナガ バジャノヒゲと同じグループに分類され、残りの2 検体は、三つのグループの中間に配置された.

これらの結果から,同じ条件で栽培されたジャノ ヒゲ,ナガバジャノヒゲ,セッコウリュウノヒゲ



Fig. 4 Score Plot (A) and Loading Plot (B) in PCA on All Data of LC/MS Analysis (positive ion mode) for Ophiopogon Root

は、それぞれ、独自の成分組成を持つことが明らか になった.一方、現在の市場品のほとんどは、ジャ ノヒゲを基原とした四川省産の栽培品であり、市場 品が、セッコウリュウノヒゲと同じ成分組成を示し たのは意外な結果であった.一般に、生薬の品質に 影響を与える因子として、遺伝的背景(基原種や品 種など)、産地や栽培条件などの環境要因、加工調 製法の違いが上げられる.今回、市場品を除く検体 は、同一の条件で洗浄、乾燥を行っており、加工調 製法の違いが原因とは考えにくい.今回の結果から は、バクモンドウの成分組成に影響を与える因子と しては、栽培条件の方が、遺伝的要素の違いよりも 大きいものと推定される.この点は、今後、慎重に 検証が必要である.

次に、各グループの成分組成を特徴付ける成分の 推定を行った. Negative ion mode, positive ion mode のデータのPCA解析におけるローディング プロットにおいて、各グループの分離に寄与してい ると推定された変数の推定化合物及び化合物タイプ をTable 2, 3に、それぞれまとめた.また、主な推 定化合物の構造をFig. 5に示した.いずれのグルー プも*Ophiopogon*属植物の主二次代謝産物の一つで あるステロイドサポニン類と推定される化合物群が 認められた他、ナガバジャノヒゲでは、モノテルペ ン配糖体やホモイソフラボン類と推定される化合物 が認められた.

Ophiopogon属植物の主二次代謝成分には,前述 のステロイドサポニン類の他に、ホモイソフラボン 類があるが、今回のPCA解析では、成分パターン の違いに寄与する化合物として、主にステロイドサ ポニン類が検出され、ホモイソフラボン類について は、ナガバジャノヒゲにおいて、2化合物が検出さ れるのみであった. その背景として、ステロイドサ ポニン類とホモイソフラボン類の含量差があること が疑われた. そこで、今回の研究に使用した試料の メタノールエキスを調製し、混合物のまま <sup>1</sup>H-NMRスペクトルを測定した結果、ステロイド サポニン類に由来するメチレン水素のシグナルに比 べて、ホモイソフラボン類に由来する芳香族水素の シグナルはわずかであった(データ示さず). このこ とから、全データを用いたPCAでは、量的に多い ステロイドサポニンの寄与が大きく見積もられたた め、各グループの特徴成分として優位に検出された ものと推定された.

次に、上記の推定を検証するため、全データの データマトリクスから、m/z 450以上を持つ変数を 削除し、ステロイドサポニン類の影響を排除した データマトリクスを作成し、再度、PCAを行った.

No	Group*	RT	m/z	Putative compound	Compound type
1	J	8.21	1147.5187		
2	J	7.90	1105.5080	OJV-X	steroidal saponin
3	J	8.72	1189.5299	OJV-IX	steroidal saponin
4	J	12.98	767.4226	ophiopogonins, B, C'など	steroidal saponin
5	J	13.84	809.4325	ophiopogonin A	steroidal saponin
6	Ν	7.17	448.2300	borneol 7- <i>O</i> -glycosideなど	monoterpene
7	Ν	13.20	985.5016		
8	Ν	13.57	999.5176	spirost-5-ene-1,3-diol glycosideなど	steroidal saponin
9	Ν	13.79	1027.5119	ophiojaponin E	steroidal saponin
10	Ν	14.22	1041.5278		
11	SR	10.90	870.4571		
12	SR	11.11	783.4176		
13	SR	11.81	957.4706	ophiopojaponin Aなど	steroidal saponin
14	SR	12.02	825.4280		
15	SR	12.66	918.4830	ophiopojaponin B	steroidal saponin
16	SR	13.79	941.4756	ophiopogonin P, Qなど	steroidal saponin
17	SR	14.59	983.4861		

Table 2 Putative Compounds Responsible for the Classification of Each Group (negative mode)

\*: J, Janohige; N, Nagaba-janohige; SR, Sekko-ryunohige

Table 3 F	Putative Co	ompounds l	Responsible	for the	Classification	of Each	Group	(positive	mode)
-----------	-------------	------------	-------------	---------	----------------	---------	-------	-----------	-------

No	Group*	RT	m/z	Putative compound	Compound type
1	J	6.90	902.4871		
2	J	7.24	1076.5387		
3	J	7.33	927.4938		
4	J	12.96	722.4238	ophiopogonins, B, C など	steroidal saponin
5	Ν	11.87	359.1122	ophiopogonone Eなど	homoisoflavone
6	Ν	12.32	359.1122	ophiopogonone Eなど	homoisoflavone
7	Ν	13.17	940.5022		
8	Ν	13.57	954.5182	ophiojaponin E	steroidal saponin
9	SR	6.56	934.4768	ophiofurospiside F	steroidal saponin
10	SR	6.95	901.4784		
11	SR	7.24	1064.5388	ophiopogonin H	steroidal saponin
12	SR	10.95	394.2866		
13	SR	11.11	430.3078		
14	SR	12.67	854.4663	ophiopogonin Dなど	steroidal saponin

\*: J, Janohige; N, Nagaba-janohige; SR, Sekko-ryunohige





その結果をFig. 6,7に示した. Negative ion mode, positive ion modeのどちらも,ジャノヒゲ,ナガバ ジャノヒゲ,セッコウリュウノヒゲの各グループに 分離する点は、全データのPCAと変わらなかった が、ステロイドサポニン類の影響を排除した解析で は、市場品も独立のグループを形成した. それぞれ のグループの分離に寄与している成分をローディン グプロットから推定した結果を, Table 4,5に示し た. また,主な推定化合物の構造をFig.8に示し た.全データによる解析と異なり,ステロイドサポ



Fig. 6 Score plot (A) and loading plot (B) in PCA on the data with *m*/*z* 450 and more of LC/MS analysis (negative ion mode) for Ophiopogon Root



Fig. 7 Score Plot (A) and Loading Plot (B) in PCA on the Data with *m*/*z* 450 and More of LC/MS Analysis (positive ion mode) for Ophiopogon Root

No	Group*	RT	m/z	Putative compound	Compound type
1	Ν	9.03	329.2314	3,5,7-trihydroxy-3-(4-hydroxybenzyl)-6- methyl-4-chromanoneなど	homoisoflavone
2	Ν	11.86	357.0966	ophiogonone Eなど	homoisoflavone
3	Ν	10.1	343.0805	2.5.7-trihydroxy-3-(4-methoxybenzyl)-6.8- dimethyl-4-chromanoneなど	homoisoflavone
4	Ν	11.7	327.0856	ophiogonone Aなど	homoisoflavone
5	Ν	9.64	329.2312	3,5,7-trihydroxy-3-(4-hydroxybenzyl)-6- methyl-4-chromanone など	homoisoflavone
6	Ν	7.64	361.1849		
7	SR+J	7.32	233.0835		
8	SR+J	10.58	343.1168		
9	SR+J	9.49	373.1276	ophiogonone Fなど	homoisoflavone
10	SR+J	14.06	355.0802	ophiogonanone Cなど	homoisoflavone
11	М	11.75	294.1016		
12	М	10.15	283.1352		
13	М	9.49	375.1827	ophiopogonanone G	homoisoflavone
14	М	11.91	367.1307		
15	М	12.45	341.1013	5, 8-dimethylophiopogonanone Bなど	homoisoflavone
16	М	10.74	359.1117	ophiogonanone E	homoisoflavone

#### Table 4 Putative Compounds Responsible for the Classification of Each Group (negative mode)

\*: J, Janohige; N, Nagaba-janohige; SR, Sekko-ryunohige; M, market product

Table 5	Putative (	Compounds	Responsible	for the	Classification	of Each	Group	(positive mode	e)
---------	------------	-----------	-------------	---------	----------------	---------	-------	----------------	----

No	Group*	RT	m/z	Putative compound	Compound type
1	Ν	11.26	238.1927		
2	Ν	11.87	165.0542		
3	Ν	11.66	359.1485	ophiogonone Eなど	homoisoflavone
4	Ν	10.08	345.0965	2.5.7-trihydroxy-3-(4-methoxybenzyl)-6.8- dimethyl-4-chromanoneなど	homoisoflavone
5	Ν	13.57	278.2239		
6	Ν	11.61	314.2685		
7	М	10.75	355.1172	ophiogonone Cなど	homoisoflavone
8	М	12.52	440.2061		
9	М	10.04	428.2922		
10	SR	12.22	357.1327	ophiogonanone Cなど	homoisoflavone
11	SR	9.89	341.1014	8-methylophiopogonone Aなど	homoisoflavone
12	SR	12.96	417.3358		
13	J	12.67	394.2867		

\*: J, Janohige; N, Nagaba-janohige; SR, Sekko-ryunohige; M, market product



3,5,7-trihydroxy-3-(4-hydroxybenzyl)-6-methyl-4-chromanone



ophiopogonone F



5-O-methyl-8-methylophiopogonanone B



ophiopogonone E

ophiopogonanone C

ophiopogonanone E



ophiopogonanone A



5,7-dihydroxy-3-(4-hydroxybenzyl)chromone



ophiopogonone C



2,5,7-trihydroxy-3-(4-methoxybenzyl)-6,8-dimethyl-4-chromanone



ophiopogonanone G



8-methylophiopogonone A

Fig. 8 Chemical Structures of Putative Compounds Responsible for the Classification of Each Group (2)

ニン類の影響が排除されたことから, 主な寄与成分 として, ホモイソフラボン類が検出された. このこ とから, ジャノヒゲ, ナガバジャノヒゲ, セッコウ リュウノヒゲは, ステロイドサポニン類だけでな く, ホモイソフラボン類の組成も異なっていること が明らかになった.

一方で、市場品の成分パターンとの比較から、種 (品種)の違いによる成分変化は大きいものではな く、環境要因など、他の因子によって、容易に別の 種(品種)型の成分パターンを取りうることが明ら かとなった.このことから、バクモンドウの基原植 物は、従来通り、ナガバジャノヒゲ、セッコウリュ ウノヒゲを含む、広義のジャノヒゲとして捉えるこ とで、特に問題はないと考えられた.

## 4 結論

ジャノヒゲ,ナガバジャノヒゲ,セッコウリュウ ノヒゲを基原とするバクモンドウを調製し,LC/ MSメタボロームによる品質評価を行った結果,主 二次代謝成分であるステロイドサポニン類やホモイ ソフラボン類の組成の違いに基づく,独自の成分パ ターンを示した.一方,ジャノヒゲを基原とする市 場品の成分パターンが,セッコウリュウノヒゲと近 似の成分パターンを示したことから,成分組成の決 定因子としては,遺伝子型の違いよりも栽培方法な どの環境因子が強いことが示唆された.